46 佐 賀 県 景 気 動 向 指 数

令和8年7月の動向

◆ 先行指数　**75.0%**　・・・・ 3か月連続で50%を上回った。
◆ 一致指数　**71.4%**　・・・・ 6か月連続で50%を上回った。
◆ 遅行指数　**66.7%**　・・・・ 5か月振りに50%を上回った。

表1 変化方向表

採用系列	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
（先行系列）													
1 所定外労働時間数	－	＋	＋	＋	－	－	＋	＋	＋	＋	＋	＋	－
2 新規求人数	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	＋	＋
3 鉱工業生産指数（生産財）	＋	＋	－	－	＋	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋
4 乗用車新車登録台数	－	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋	＋	＋	－
5 鉱工業在庫率（生産財・逆）	－	＋	＋	＋	＋	＋	－	－	－	－	＋	＋	＋
6 新設住宅着工戸数	＋	－	＋	－	－	－	－	＋	－	－	－	－	＋
7 企業倒産件数(逆)	－	0	－	＋	0	＋	＋	－	－	－	0	＋	＋
8 銀行貸出残高(☆)	－	－	－	＋	－	＋	－	＋	0	－	－	＋	＋
拡張本数	2.0	3.5	3.0	4.0	3.5	4.0	4.0	5.0	3.5	3.0	4.5	7.0	6.0
採用指標数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
先行指数	25.0	43.8	37.5	50.0	43.8	50.0	50.0	62.5	43.8	37.5	56.3	87.5	75.0

（一致系列）	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
1 有効求人倍率（就業地別）	－	－	－	－	－	－	－	＋	0	＋	＋	＋	＋
2 就職率	＋	－	0	－	－	－	＋	＋	＋	－	－	－	＋
3 鉱工業生産指数（総合）	－	－	＋	＋	＋	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋
4 鉱工業出荷指数（総合）	＋	－	＋	＋	＋	－	－	－	－	＋	＋	＋	－
5 大型店売上高(☆)	－	＋	－	－	＋	－	＋	＋	＋	－	＋	－	－
6 着工建築物床面積(産業用)	－	－	＋	＋	＋	－	－	＋	＋	＋	－	－	＋
7 輸入総額(唐津港＋伊万里港)	－	＋	－	＋	－	－	＋	＋	＋	－	＋	＋	＋
拡張本数	2.0	2.0	3.5	4.0	4.0	0.0	3.0	5.0	4.5	4.0	5.0	4.0	5.0
採用指標数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
一致指数	28.6	28.6	50.0	57.1	57.1	0.0	42.9	71.4	64.3	57.1	71.4	57.1	71.4

（遅行系列）	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
1 常用雇用指数	＋	＋	＋	＋	－	－	－	＋	＋	0	0	－	＋
2 雇用保険受給実人員(逆)	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	－	－	－	＋	＋
3 陶磁器生産重量(☆)	－	＋	＋	＋	－	－	－	0	＋	＋	＋	＋	－
4 消費者物価指数(☆)	－	－	－	－	＋	－	－	－	－	－	＋	－	＋
5 鉱工業在庫指数（総合）	＋	＋	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋	－	－	－
6 銀行預貸率	0	＋	＋	＋	0	＋	－	＋	－	－	－	－	＋
拡張本数	2.5	4.0	3.0	3.0	1.5	2.0	2.0	4.5	3.0	2.5	2.5	2.0	4.0
採用指標数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
遅行指数	41.7	66.7	50.0	50.0	25.0	33.3	33.3	75.0	50.0	41.7	41.7	33.3	66.7

(逆)は逆サイクルを示す。
(☆)は対前年同月比で、その他はセンサス局法により季節調整を行っている。
(注)・センサス局法X-12-ARIMAで季節調整をしている指標についてはデータを追加するたびに季節調整要因が変更されるため遡及して数値が変わり変化方向が変わることがあります。
・鉱工業指数など一部の指標は補正を行うことから、同様に遡及して数値が変わることがあります。
・有効求人倍率は、平成17年1月までは「受理地別値」を使用し、平成17年2月以降は「就業地別値」を使用しています(就業地別値は、平成17年2月分からデータが公表されているため)。また、毎年1月分公表時に新季節指数に改定されることから、遡及して数値が変わり変化方向が変わることがあります。
・令和4年10月分まで先行系列の指標に用いていた「不渡手形金額」及び「手形交換金額」は、令和4年11月の電子交換所への移行に伴いデータの公表がなくなったため、令和4年11月分から、これらを除外した指標により先行指数を算出しています。
なお、遡及して全期間を再計算しているので、これ以前の公表値とは数値等が異なります。
・令和6年2月分公表から、「鉱工業(生産・出荷・在庫)指数」の基準年更新により、全期間で遡及して数値を変えているため、全系列(先行・一致・遅行)において、変化方向が一部変わっています。
・参考値として掲載しているCI一致指数について、毎年1月分公表時に計算基準を更新することから、全期間で遡及計算するため数値が変わることがあります。
・令和7年4月分公表から、「陶磁器生産重量」の季節調整をセンサス局法X-12-ARIMAから対前年同月比に変更し、全期間で遡及して数値を変えているため、変化方向が一部変わっています。
・令和8年7月分公表から、「消費者物価指数」の基準年更新により、全期間で遡及して数値を変えているため、変化方向が一部変わっています。また、「銀行貸出残高」「陶磁器生産重量」「銀行預貸率」について、集計方法を変更し全期間で遡及して数値を変えているため、変化方向が一部変わっています。

景気動向指数(DI:Diffusion Index)の見方

★ DIは、景気の動きを各種の指標によって総合的にとらえようとするもので、各系列で採用指標のうち3か月前と比較して増加している系列(＋)が何%を占めているかを表したものです。
各系列において、指数の計算方法は次式によります。
指数＝(「＋」の指標数＋0.5×保ち合い「0」の指標数)÷当該採用指標数×100
★ DIには3つの指標があり、それぞれ下記のような特徴があります。
「先行指数」・・・ 景気に対し先行して動き、景気の先行きを予測する。
「一致指数」・・・ 景気に対しほぼ一致して動き、景気の現状を示す。
「遅行指数」・・・ 景気に対し遅れて動き、景気の動きを確認する。
★ 一致指数が基調的に50%を上回って推移している時期は景気拡張期、
50%を下回って推移している時期は景気後退期と判断します。
なお、値そのものの大きさは景気変動の大きさないし振幅を示すものではありません。
★ DIは不規則な動きをすることが多いので、基調的な動きは累積DIのグラフでみると分かりやすくなります。